



題字・天野貞祐

第 103 号

令和 6 年 12 月 15 日発行

発行所 〒 112-0014 東京都文京区関口3-8-1

TEL / FAX 03 (3946) 6352 (直通)

獨協同窓会 発行責任者 竹内文生

主な内容

会長就任挨拶	竹内文生	(1)
同窓会会長としての 6 年間を振り返って	木原正義	(2)
新執行部挨拶	高野宗之	(3)
令和 6 年度通常総会報告		(4)
令和 6 年度総会前特別講演会報告	須賀 幾	(5)
令和 6 年度同窓会親睦会 (同窓会奨励賞授与等)	行川恭央	(6)
獨協祭参加報告	茂呂親利	(7)
吉田卓司先生を偲んで	高橋 博	(8)
現役生徒からの寄稿		(9)
新井孝重さん 天皇・皇后両陛下と愛子様へ御進講	中村昭美	(10)
三浦諒介さん 独創性を拓く先端技術大賞 (特別賞) 受賞	三浦諒介	(11)
連載 ドイツ 留学記 ⑥	都築 修	(12)
獨協ぶらり旅	鍋屋剛志	(14)
OB 会活動報告		(15)
クラス会だより		(16)
私の近況		(18)
編集後記	鍋屋剛志	(20)



<https://www.dokkyo-mejiro.com>

<https://www.facebook.com/groups/297418860299984/>

会長就任挨拶

会長 竹内文生 (昭和 46 年卒)



同期卒業の同窓会役員を含め諸先輩からの推挙があり、令和 6 年獨協同窓会総会で同窓会会長に選任されました竹内文生でございます。

まず簡単に自己紹介させていただきます。昭和 40 年に獨協中学に入学し、昭和 46 年に本学を卒業して

います。大学卒業後は大学院に進み、医療関係の財団に 10 年間務め、その後看護系の短大、大学で教鞭をとり、公立大学の教授、理事を務め現役を引退しております。現役引退後は地域活動にも参加し、現在に至っています。

獨協同窓会とのかかわりについて申し上げます。会報である独協通信の編集には長年かかわり、同窓会の執行部の末席におりました。同窓会活動を会報の編集という立場で見てまいりましたが、同窓会の役員の方々のご苦勞は身近に見てきたこともあり、会長の務めの大変さもわかっているつもりです。幸い今期の執行部には若手もたくさん参加いただいておりますので、若い方々の新鮮な発想やエネルギーに期待して何とか任期を全うしようと考えています。

今更申すまでもありませんが、同窓会は同じ学び舎で青春時代を過ごした者同士学年を超え交流を深める場だと考えます。卒業年次を同じくする者はクラス会

や同期会といった場で旧交を温めるチャンスがあります。また、学年を超えた交流は学生時代の部活動やサークル活動の中で卒業後も続いているようです。このほかに同窓生のつながりは職域単位の同窓会 (ドクターズクラブ、歯科医師獨協会など)、大学単位の同窓会 (上智大学獨協ソフィア会、日大医学部獨協同窓会など) そして地域単位の同窓会 (杉並獨協会など) などいろいろとあります。そうした各種同窓会の活動の中でも獨協同窓会はその基本となるもので多くの会員の方から構成され、それぞれの同窓会を支援し、会員相互の交流の場として活動しています。また、最近では関西地方在住の方が地域同窓会を設立する動きもあり、同窓会としてもこうした活動を支援していこうと考えています。

同窓生の数は、わたくしが卒業した時代には 1 学年 7 クラス、8 クラスあったことから毎年 300 人以上の同窓生が会員に加わっていましたが、学校の定員の削減で最近では毎年 200 人の新卒者を迎える状況になり減少しています。そうした中、卒業年次ごとに年度幹事を 2 名ずつ選任することが同窓会会則に示されていますが、実態としては平成以降の卒業生は少なく、高齢の同窓生が会の運営に携わっているのが現状かと思われま。こうした問題への対応は長期的に同窓会を活性化していく上では重要な課題の一つではないかと考えています。そのためには在校生への働き掛けも重要ではないかと考え、数年前から在校生向けの講演会を各界で活躍中の卒業生を演者にして開催しており、

在校生には良い刺激となっているようです。また、多くの同窓生、在校生に同窓会を知ってもらうために毎年秋の秋分の日前後に開催されています。獨協祭にはブースを設けその活動状況の一端を紹介しているところでもあります。

そのほか同窓会の活動としては母校の図書室への図書費の寄贈や優秀な卒業生やスポーツ部の活動で顕著な活動のあった生徒の顕彰なども行っています。また、折に触れ校舎の改築費などの寄付、奨学金の拡充など母校への支援も行っています。

以上のような活動については会報を通じて同窓生諸氏にお伝えしているとは思いますが、今般会報をめぐる環境に大きな変化が起こっています。現行の会報は総会前の総会開催通知および年末の会報の年2回と

なっております。会報の配布方法は、同窓会発足以来印刷物として郵送で行って来ました。近年、情報化の進展で印刷物での情報伝達からネットワークを介したデジタル情報での伝達へと変化しております。このような状況は郵送コストにも影響し、本年10月から郵便料金が改定され会報の郵送についても見直しを迫られる事態となっております。少なくともこの課題に対し私が会長在任中に何らかの解決をしていかなければなりません。そうした意味で会員諸氏の協力とご理解を頂かなければと考えています。

これからの同窓会活動に少しでもお役に立てればと考えております。是非とも同窓生各位のご支援ご協力を賜り会の運営に尽力していこうと考えております。

同窓会会長としての6年間を振り返って

監事 木原正義 (昭和47年卒)

バブル崩壊後「失われた30年」と言われた平成時代最後の年2018年6月に第10代獨協同窓会会長に就任し、翌年年号が令和に変わり、6年間の経過しました。そして今年6月の総会でようやく竹内新会長に会長職をバトンタッチすることができました。

会長に就任した翌年、令和元年(2019年)12月に中国の武漢市で新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の1例目の感染者が報告され、翌年には世界中に瞬く間に感染が広がり、多くの感染者、死亡者が出ました。

学校の活動は大きく制限され、しばらくの間学校が

ロックアウトされました。授業は在宅が中心となり、学生時代の大切な思い出となるはずの文化祭、体育祭、修学旅行等がほとんど中止になってしまいました。また、同窓会の活動も学校内での会議、事務局の仕事は大幅に制限され、講演会や恒例の総会後の懇親会も中止となりましたが、同窓会役員の方々の献身的な働きにより「獨協通信」を予定通り年2回刊行することができました。

コロナ禍において全国的にマスクや消毒液が不足し、学校内でも在庫が尽きてしまう事態になりましたが、この状況を同窓会で広報したところ、多くの同窓生からの迅速な支援があり、窮地を凌ぐことができました。多くの同窓生の「獨協愛」を感じる事ができました。

令和3年4月より獨協医科大学名誉教授の上田善彦先生が校長に着任されました。上田校長は私と同じ昭和47年卒で気心の知れた仲でもあり、獨協学園発展のために3年以上一緒に活動できたことを誇りに思っています。

上田校長の発案で獨協学園創立140周年を記念して「感謝の集い」を開催していただきました。同窓会だけでなくPTAや後援会の役員を招いて総勢150人以上の獨協を愛する人々が椿山荘に集い、とても楽しいひと時を過ごすことができました。

さて、同窓会では平成25年から始まった「奨学金の更なる充実のための寄付要請」に対し、PTAと後援会それぞれ1000万円の寄付を行いました。残念ながら会費の納入率が低下する中、浅野元会長から引き継いだ財務拡張寄付が定着化したことや、支出の削減を図ることで基本金と積立金を維持することができました。

いよいよ竹内新会長体制がスタートしました。経験豊かな竹内会長ですが、会長を補佐する役員は同窓会役員としての経験の浅い若手が多く、当分の間試行錯誤



左から竹内会長(S46)、上田校長(S47)、筆者、猪口獨協学園理事長(S48)

誤が続くことと思います。しかし実に素晴らしい若者たち(?)が集まり、最高の世代交代ができたと感じています。私達同窓会役員 OB も全力で新体制を支えていきますが、会員の皆様にも暖かいご支援とご理解

をいただきますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、私の会長時代を支えてくださいましたすべての役員の方々に感謝を申し上げます。

新執行部挨拶

総務委員長 高野 宗之 (平成8年卒)

獨協中学・高等学校は、言うまでもなく、創立140年以上という長い歴史を持つ名門校であり、その同窓会もまた、長い伝統を受け継いできた格式ある組織です。この度、2024年6月15日の総会にて竹内文生新会長が選出され、11月9日の幹事会で新執行部が正式に発足いたしました。新執行部は、平均年齢が59.9歳と50歳台となり、木原前会長就任時の執行部平均年齢が63.3歳(就任当時)でしたので3歳以上の若返りを果たし、大きく刷新されております。この歴史ある同窓会の良き伝統を踏襲し、そこに新しい風を取り入れながら、更なる発展に向け尽力する所存です。

さて、現在の獨協同窓会の喫緊の課題の一つとして、「同窓会誌『独協通信』の郵送料金高騰問題」が挙げられます。2024年10月1日から約30年ぶりに郵送料金が大幅値上げされました。その為、現在の同窓会費では年2回の郵送を維持することが困難となり、対応策を検討しております。具体的には、『独協通信』の発行は年2回を維持するものの、郵送については原則年1回とし、もう1回はウェブベースでの閲覧をお願いする方針です。ただし、従来通り年2回の郵送をご希望される方には年2回の郵送を継続し、今後、「皆様各自で『独協通信』閲覧スタイルを選択できる」ようにする案などを検討中です。本案は、もう少し議論を重ね、改めてご提案させていただきますが、引き続きご意見などございましたら賜りたくよろしくお願い申し上げます。

さらに、もう一つの新執行部の重要なテーマは、「幅広い世代に渡る同窓生の繋がり強化」かと思えます。獨協同窓生同士の絆を深めるための機会を増やし、皆様の母校に対する愛着や同窓生同士の繋がりをより一層育んでいただけるようにしたいと考えております。母校を卒業してもなお続く大切なコミュニティである獨協同窓会は、卒業したという証のみではなく同窓生各位の将来にも繋がるような場として、獨協同窓会の会員であることの誇りと価値を高めていくことが、私たち新執行部の使命であると感じております。

最後に、長年に渡り獨協同窓会を牽引してこられた木原前会長、谷田貝前副会長、沖山前幹事長、浅野前監事、新井前監事をはじめとした前執行部の皆様には大変感謝しております。長年の皆様の獨協同窓会への想いと行動、実績、なにより深い獨協愛に敬意を表し感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございます。これからもご指導賜りながら一緒に獨協同窓会を盛り上げて頂きたく、よろしくお願い致します。

今後、これまで先輩方が築き上げた良き伝統を大切にしつつ、新しい要素を柔軟に取り入れていくことで、獨協同窓会がさらに発展し、より多くの同窓生にとって魅力ある組織となることを目指します。多くの方々のご指導とご鞭撻をいただきながら、誠心誠意取り組んで参ります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



前列左から、高野(総務委員長)、野村(副会長)、竹内(会長)、後藤(副会長)、窪田(総務副委員長)
後列左から、鍋屋(副幹事長)、小柳(総務副委員長)、茂呂(広報委員長)、三井(広報副委員長)、行川(幹事長)

新執行部名簿

<執行部>			
会 長	竹内 文生		S46
副 会 長	野村 芳樹		S54
〃	後藤 典彦		S58
幹 事 長	行川 恭央		S63
副 幹 事 長	鍋屋 剛志		H 8
総 務 委 員 長	高野 宗之		H 8
総 務 副 委 員 長	小柳 嘉一		S48
〃	窪田 潤		S48
会 計 委 員 長	坂下 眞一郎		S46
会 計 副 委 員 長	後藤 典彦(兼務)		S58
広 報 委 員 長	茂呂 親利		H 8
広 報 副 委 員 長	三井 義久		S63
<監 事>			
監 事	木原 正義		S47
〃	沖山 秀司		S49

令和6年度 通常総会 報告

令和6年度通常総会は、6月15日（土）午後4時から母校会議室で開催されました。執行部をはじめ40名にご参加いただき、委任状は185通受理しました。独協通信101号以降にご連絡いただいた物故会員25名と6月1日に逝去された元教諭吉田卓司氏に黙祷を捧げ、開会しました。独協通信102号でご案内しました第1号議案～第5号議案に承認いただきました。

令和5～令和6年度の概要

（詳細は独協通信102号をご覧ください）

【第1号議案（令和5年度事業報告）】

新型コロナウイルス感染拡大防止策を学校と協力し継続した。通常総会および総会前特別講演会ならびに椿山荘に於いて親睦会を開催した。アルカディア市ヶ谷に於いて年2回の幹事会を開催した。

【第2号議案（令和5年度収支決算）】

収入額 ¥15,451,594 円
 支出額 ¥22,984,005 円
 収支差額 -¥7,532,501 円*1

【第3号議案（次期会長、監事候補について）】

以下の役員人事案が上程され、承認された。

会長 竹内文生（昭和46年卒）
 監事 木原正義（昭和47年卒）
 沖山秀司（昭和49年卒）
 副会長 野村芳樹（昭和54年卒）
 後藤典彦（昭和58年卒）
 幹事長 行川恭央（昭和63年卒）

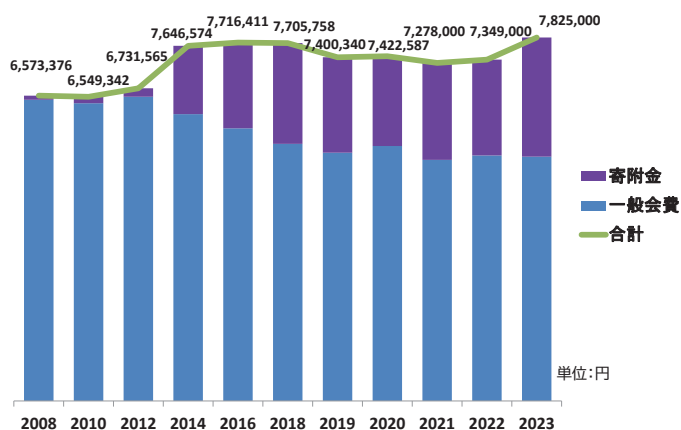
【第4号議案（令和6年度事業計画）】

会費納入率を上げるため、電子媒体による情報発信および独協通信に自動引落による納付案内の同封を継続する。獨協祭への参加、OB講演会を開催する。クラス会等への支援として、人数に応じて増額した補助金を継続する。

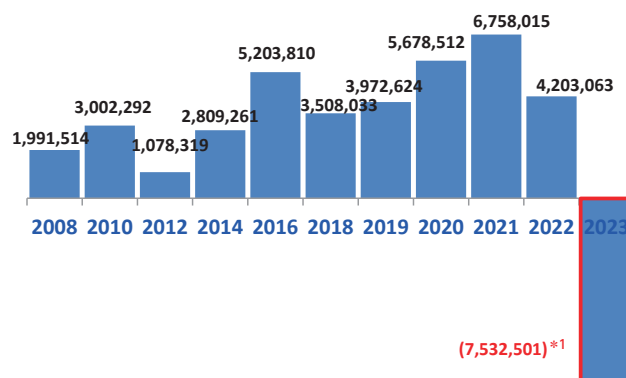
【第5号議案（令和6年度収支予算案）】

収入額 ¥15,700,000 円
 支出額 ¥15,574,000 円

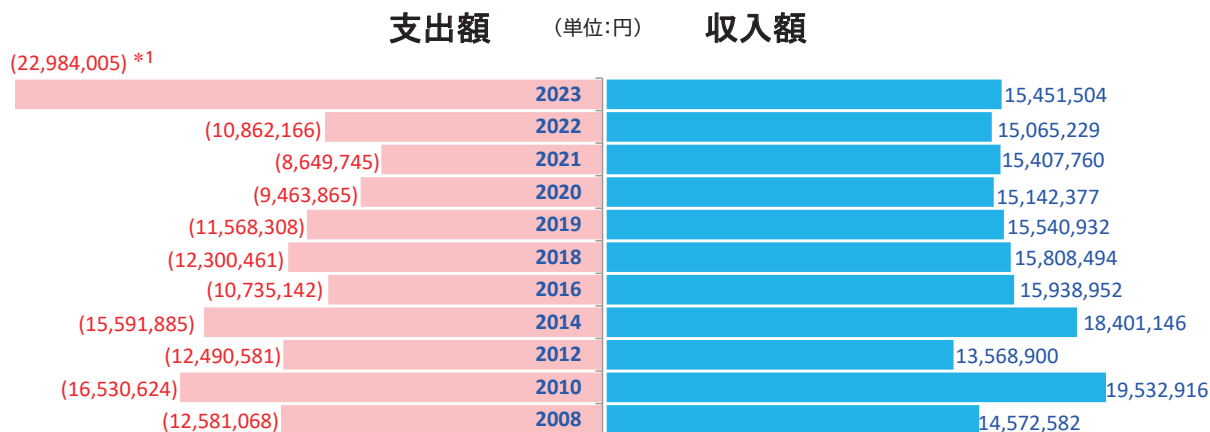
一般会費と寄附金の推移



収支差額金の推移



同窓会出入金額の推移



*1 奨学金拡充のための学校からの寄付要請による1000万円の支出を含む

令和6年度 総会前特別講演会 報告

須賀 幾 (昭和59年卒)

令和6年度通常総会に先立ち、15:00 から講演会を開催しました。

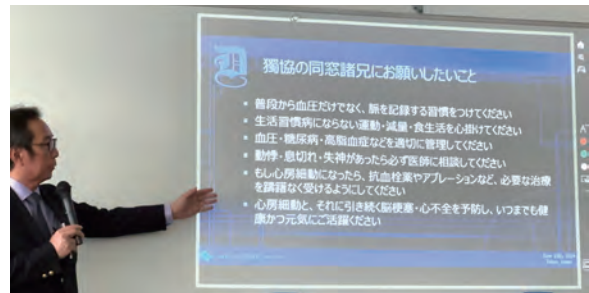
演者：須賀 幾 (昭和59年卒)

演題：「知っておきたい心臓の病気」
～心房細動と不整脈の診断と治療～



心臓は筋肉で出来ており全身に血液を送るポンプとして働いていますが、その心臓の中で定期的に電気信号が発生し心臓全体に行きわたることで心臓は動いています。電気信号を生成しそれを心臓全体に伝える、いわば配線のような仕組みを刺激伝導系と呼んでいます。刺激伝導系のどこかに異常が生じ、定期的な電気信号の生成や伝わりに乱れが生じた状態が不整脈ということになります。不整脈が生じると、動悸、胸の不快感、めまいや失神、息切れや呼吸困難、疲労感や脱力感などの症状を感じるようになります。不整脈は体表面に装着した電極で心臓の電気信号を記録する心電図によって診断されます。また、自分自身で親指の付け根にある橈骨動脈を触れることによっても、脈の乱れを知ることが出来ます。不整脈には脈が遅くなったり停まってしまう徐脈性不整脈、脈が速くなる頻脈性不整脈、瞬間的な乱れを生じる期外収縮など多くの種類があり、健康な人にもしばしば見られるものから致命的なものまで重症度・緊急性もさまざまです。その中でも加齢に伴い増加し、放置することで重篤な脳梗塞や心不全に至る心房細動が注目されています。

心房細動は人口高齢化により増加し、現在日本では100万人を超える心房細動患者がいると推計されています。我々の良く知る著名な政治家やスポーツ選手も心房細動が原因となった脳梗塞で命を落とし、また重い後遺症で苦しんでいます。心房細動は左心房とその裏側につながる肺静脈の境目から異常な高頻度で電気信号が生まれ、それが心房全体に伝わって心房の筋肉を痙攣させることにより発生します。異常な電気が発生する肺静脈と左心房の間に加熱や冷凍凝固を人為的に行い、肺静脈から心房に電気が伝わらないように絶縁する根治的な心房細動治療があります。この方法はカテーテルアブレーション（肺静脈隔離術）と呼ばれ、現在国内外の心臓病治療を得意とする医療機関で広く行われるようになっています。心房細動のカテーテルアブレーションは不快な症状や脳梗塞を防ぐだけでなく、寿命を延ばす可能性も示されています。



但し、心房細動の問題点は症状が無かったり、症状があっても確認できないものがあることです。心房細動のリスクになる高血圧、糖尿病、肥満、喫煙、過度の飲酒習慣のある方は、これらを改善することは勿論、毎日自分で橈骨動脈の脈の乱れがないか確認する習慣をつけることも大切です。また最近ではApple Watchで脈の乱れ・不整脈を検出・記録することもできるようになりました。高齢者や心房細動リスクのある方ではこのようなツールの活用も考えて頂ければと思います。

同窓諸兄におかれましては、心房細動をはじめとする不整脈につながる生活習慣を改善し、ひとたび心房細動と診断されたら躊躇なく適切な治療を受けて頂き、未永く健康でお過ごしいただきたくお願い申し上げます。

医療法人 須賀医院 (さいたま市西区)
須賀医院 駅前ハートクリニック (与野駅西口)
理事長 須賀 幾



- 普段から血圧だけでなく、脈を記録する習慣をつけてください
- 生活習慣病にならない運動・減量・食生活を心掛けてください
- 血圧・糖尿病・高脂血症などを適切に管理してください
- 動悸・息切れ・失神があったら必ず医師に相談してください
- もしも心房細動になったら、抗血栓薬やアブレーションなど、必要な治療を躊躇なく受けるようにしてください
- 心房細動と、それに引き続く脳梗塞・心不全を予防し、いつまでも健康かつ元気に活躍ください

講演会の最後のスライドで紹介されたテイクホームメッセージ

令和6年度同窓会親睦会

幹事長 行川恭央（昭和63年卒）

今年の親睦会は、3月に卒業をしたフレッシュな同窓生がたくさん参加をしてくれました。おかげでコロナ禍以前の賑わいが戻ってきました。来年（令和7年）は、6月21日（土）に同じ椿山荘で開催する予定ですので奮ってご参加ください。新卒業生は無料招待いたします！



吹奏楽部による演奏



親睦会前に開催された総会で新会長に選出された竹内文生同窓会長（S46）挨拶



退職された先生方
左から英語科 富岡卓先生、社会科 新井孝重先生（S43）
社会科 柏葉洋先生、国語科 山田直巳先生



元会長の宮田和夫氏（S24）による乾杯のご発声



歓談風景 現役生徒がクラブ活動の活躍を報告

その他、総会・親睦会当日の同窓会トピック（報告）

同窓会奨励賞を授与 同窓会から在校生の活躍に対し木原会長から同窓会奨励賞を授与しました。

- ・英語ディベート部（ワールドスカラーズカップで好成績。）
- ・国際ドイツ語オリンピック 2024 日本代表生徒
- ・アーチェリー部（U18 ナショナルチーム選考会 2位・日本代表、全国高校大会決勝進出。）

同窓会から学校に対して図書費を贈呈

皆様から頂いた会費をもとに母校の図書充実を支援するために、木原会長から上田校長に図書費 200,000 円を贈呈しました。

学校から感謝状の贈呈

これまでの学校に対する同窓会の貢献に感謝し、歴代の同窓会長と副会長に対して上田校長より感謝状を頂きました。

会長経験者 宮田和夫氏（S24）、鈴木荘太郎氏（S35）、浅野一氏（S42）、木原正義氏（S47）。

副会長経験者 櫻田可人氏（S41）（欠席）、森上克彦氏（S47）、新井雅安氏（S46）（欠席）、谷田貝茂雄氏（S51）

獨協祭参加報告

広報委員長 茂呂親利 (平成8年卒)

9月21・22日、通常開催となった獨協祭はコロナ禍を経て4年ぶりに通常開催となった昨年以上に大盛況のうちに終了しました。今年のテーマは「Sparkle」。この言葉にはきらめく、輝く、火花を発するといった意味がありますが、転じて「生き生きとしている様子」という捉え方があります。この言葉以上に文化祭に参加された全ての皆さんがとても輝いているように感じ取りました。

毎年好評の記念写真プリントサービスには多数

の方にご参加頂き、メインの展示内容となる天野貞祐先生の生い立ち、ドクターズクラブ、鉄道研究部のOB会紹介展示の見学、同窓会グッズ頒布とあわせて終日賑やかでした。

同窓会展示教室は卒業生同士の待ち合わせの場として使われることが多く、今年も久しぶりの再会で話に花が咲いている様子を多く見ることができました。たまには同窓会展示教室へ足を運んでみませんか？



グッズ紹介

2024 2色ボールペン+シャープペンシル



三菱鉛筆製「ピュアモルト」
ダークとライトがございます



今年も、総会親睦会および
獨協祭にて頒布しました



ピンバッチ

カフス



野球部応援グッズ



キャップ

Tシャツ

発送ご希望の方は、同窓会
事務室までご連絡ください

info@dokkyo-mejiro.com
03-3946-6352

※ピンバッチ、カフス以外は現在在庫なし

吉田卓司先生を偲んで

高橋 博 (昭和43年卒)

吉田卓司先生 (保健体育科) は令和6年6月1日、老衰のため逝去されました。

吉田卓司先生が帰らぬ旅へと旅立たれた。一昨年の11月に奥様もお招きして20年振りとなるクラス会を開催し、次は先生の米寿祝いを兼ねて2024年に開こうと旧友、先生と約束していたのに、吉田先生の出席するクラス会開催は叶わぬものとなってしまった。



1963 (S38) 年 熊谷にあったグラウンドでの体育祭にて吉田先生を囲む1962 (S37) 年に中学へ入学した筆者ら

私たちは先生が獨協に赴任された翌年の新生で、吉田先生が初めてのクラス主管として受け持たれたクラスの教え子である。当時の獨協中学は学年ごとのクラス替えはなく、先生も3年間持ち上がりでクラスを受け持ってくれたので、中学時代は全員吉田先生のクラスで3年を過ごした。高校進学後もずっと先生のクラスにいた生徒、中には心配？他の担任には任せると危なそうな生徒もいたらしいが、6年間ずっと先生の下で獨協学園生活を過ごした者もいる。危ない生徒ではないが、先生から英語の成績を褒められたのがきっかけで英語学習に目覚め、クラスの皆からも英語のK君と一目置かれる存在だった彼も6年間先生の下で学び、大学卒業後は大手百貨店の海外店舗勤務を歴任した。天野先生が言っていた「諸君は可能性そのものである」を地で行ったような生徒だった。

中学1年2組55名の12才児、吉田先生は27才で体育の先生でもあったから、ちょっと年の離れたお兄さんという感じで親しみやすかった。先生は私たちが中2の秋に結婚され、生徒達の何人かは、迷惑も顧みず入れ替わり立ち代わり新婚のアパートへお邪魔した。

奥様も、本当は迷惑だったろうけれど、私たちが暖かく迎えてくれた。先生はまた積極的に生徒たちと学園生活を楽しむことにも力を注いでくれ、今となってはよく実施できたものだと感心するが、学校行事とは別にクラス単独で日光へのバス旅行も行った。この旅行中のちょっとした事件は今でもクラス会のたびに話題にあがる楽しい昔話であると同時に、当時は他の2クラスから相当うらやましがられたイベントでもあった。



金婚式を祝う筆者たち 2011年11月11日 上野韻松亭

人間の一生に絶対確実などということはほとんどないけれど、唯一、人はいつか死ぬということだけは紛れもない現実だ。私たちも遠からずこの世の生を終わる時が来る。あの世の存在を信じるかどうかは人それぞれかも知れないが、もしあの世で先生に再会できるなら、昔先生の新婚の石神井のお部屋にお邪魔した時のように、クラスの皆が入れ替わり立ち代わり毎週のように逢いにいきますので、思い出話だけでなくあの世での進路指導もお願いしますね！

だって吉田先生はずっと僕らのクラス担任ですから

<ご 略 歴>

1936年 横浜市に生まれる
1955年 都立三田高校卒業
1959年 東京教育大学体育学部健康学科卒業
1961年 獨協中学・高等学校教諭
1973年 獨協医科大学設立と同時に医科大学講師
1979年 獨協医科大学教授
1996年 医学博士 (獨協医科大学 乙第285号)
2007年 獨協医科大学名誉教授
日本体育協会公認1級・2級スポーツトレーナー
獨協中学・高等学校・獨協医科大学を通して、ラグビー部・サッカー部を指導。
栃木県ラグビーフットボール協会副会長及びレフリーソサエティー委員長、関東ラグビーフットボール公認レフリーなどを歴任。
趣味：ゴルフ・テニス・スキー・ボウリング・絵手紙・写真。

現役生徒からの寄稿ページ

アーチェリー部、インターハイ団体の部で東京の座を射止める

高校2年 原 将太

私のインターハイ出場は、今年で2回目です。我々が長崎に行って活躍できたのも、同窓会の皆様のご支援のおかげです。本当に感謝申し上げます。さて、結果報告ですが、団体としては予選15位通過をし、その後の決勝戦で9位まで上り詰めることができました。私の個人的話ですが、去年は緊張で全力を発揮することすらできず、ただただ悔しい思いをしたのですが、今年の目標であるリベンジを無事果たせたことが何より嬉しかったです。



高校2年 河西大心

九州の長崎市で行われたインターハイに、校長先生やOBの方々に協力いただき、東京代表として出場して来ました。各県の代表選手との交流を通して、楽しい経験がたくさんできました。しかし、個人、団体ともに大会への調整がうまくできず、悔しい結果となってしまいました。来年のインターハイも出られるように予選に向けて一生懸命練習し、今回の経験を活かして、来年こそは自分の実力を出し切り、応援してくれる方々のご期待に応えられるように頑張りたいと思います。



国際ドイツ語オリンピック2024に“日本代表”として出場！

高校3年 狩野 晋一郎

みなさん、こんにちは！私は、2024年7月15日から7月22日にドイツの中心部に位置する大学都市・ゲッティンゲンで開催された国際ドイツ語オリンピック(IDO)に日本代表(国内大会1位)として出場しました。私はこの記事の中で、IDOの活動について紹介したいと思います。IDOは2年に1度、ゲーテ・インスティテュートが国際ドイツ語教師協会と共催で

おこなっている世界最大規模のドイツ語コンテストです。IDOには、世界中から数百万人の生徒たちが参加し、5大陸、61か国での国内選考を勝ち抜いた14歳から17歳の100人以上の生徒がドイツに集まり、3つのレベル(A2・B1・B2)で世界トップ3の座を競いました。

私たちは、最も優れたドイツ語学習者のタイトルを競うだけでなく、緑豊かな街でさまざまな体験をしま

した。様々なプログラムの中には、ゲッティンゲンの旧市庁舎で行われたオープニングセレモニー、ゲッティンゲンの街観光、コンテストに向けたワークショップ、国紹介イベント、特別野外コンサート、パーティーなどがありました。私はその中でも、国紹介イベントと特別野外コンサートにとっても感銘を受けました。国紹介イベントでは、全 61 개국・105 名の参加者が自国についてプレゼンテーションやダンスなど、それぞれのやり方で自国を紹介し、参加者を盛り上げました。私たち・日本は、アニメ・ワンピースの衣装を着て、ソーラン節を踊りました。61 か国の発表をすべて聞き終えると、まるで世界を旅した気分になりました。お互



います。これからもみんなと SNS を通じて交流をし、いつかまた再会できることを願っています。

末尾となりますが、ドイツ語を学ぶ機会を与えてくださった獨協中学・高等学校に深く感謝し、応援していただいた同窓会の皆さまに厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

いの国の伝統的な文化を知ることで、国際的な相互理解が深まり、国境を超えた友情をはぐくむことができました。世界中に素晴らしい友人を持つことができたことは私の人生の宝物です！

IDO 閉幕後も SNS を通じてチャット交流が続き、毎週土曜日に Discord を通じてビデオチャットもして



トピックス

中村昭美 (昭和41年卒)

新井孝重さん (昭和 43 年卒) 天皇・皇后両陛下と愛子様へ御進講

今年の 7 月 24 日は後宇多天皇 (1267-1324) が亡くなられてから、ちょうど 700 年目の命日に当たります。このため宮内庁からの要請をうけ、本校同窓の新井孝重さん (獨協大学名誉教授) が 7 月 19 日皇居に上がり、天皇・皇后両陛下と愛子内親王に対し、後宇多天皇のご事蹟について御進講をされました。

後宇多天皇の時代 (鎌倉時代の後期から末期にかけて) は蒙古の襲来があったり、皇統が分裂したりと、朝廷にとっては大変な時代でした。新井さんのお話は多岐に渡ったとのことでした。

吹上御所での御進講は愛子様の盛んなご発言もあって、終始和やかな雰囲気につつまれていたとのことでした。なお、22 日には赤坂御所に秋篠宮ご夫妻をお訪ねし、同様の御進講を行いました。

このたびのことは新井さんお一人の栄誉というだけでなく、新井さんが獨協高校を卒業し、しかも長らく社会科教諭として同校に勤務していたことを考えれば、獨協中学高等学校及び同校同窓会にとっての栄誉どころか、大いに慶びたいと思えました。

*後宇多天皇：(13 世紀末～14 世紀初め)

王家が持明院統と大覚寺統に分裂し、天皇制が危機に瀕した時代に天皇になられた方で、院政を二度にわたって行い朝廷政治の改革に尽力されました。

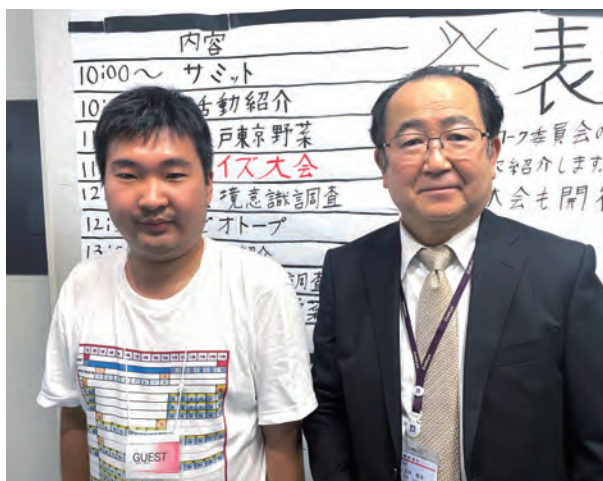
しかし多くの気苦労を味あわれて、晩年には真言密教に傾倒し東寺や大覚寺の隆盛に力を尽くされました。

独創性を拓く 先端技術大賞 (特別賞) 受賞

三浦 諒 介 (平成 31 年卒)

このたび、産経新聞社主催の「第 37 回独創性を拓く先端技術大賞」(特別賞)を受賞しました三浦諒介と申します。私は平成最後の卒業生です。私が獨協高校を卒業した直後に、元号が「平成」から「令和」に変わり、令和元年以降に獨協中へ入学した生徒は 6 クラス編成になるなど、元号が変わると共に、本校の中でも世間でも様々な転換期となった事でしょう。私を受賞に至るまではおよそ 6 年の歳月がかかりました。私は高校 3 年の夏頃から、現在の周期表に疑問を持つようになり、自分なりの仮説をまとめ、論文作成に奔走しました。論文作成に当たり、本校の理科教諭に意見を仰いだものの、厳しい意見が返ってきてしまい、悩みましたが、臆すること無く理化学研究所の研究者の方々や世界中の有名な研究者の連絡先をインターネットで調べて、無謀にも論文を送付し、ご意見を仰ぎました。

そして、令和元年の 7 月には、ノーベル賞受賞し「教科書を疑え」という名言で知られ本庶佑先生に私の論文を読んで頂いたところ、励ましの言葉と共に記念品を送って頂きました。その後も様々な研究機関にも論文を送付し続けて、「第 37 回独創性を拓く先端技術大賞」に応募したところ、本年の 6 月、ついに受賞という形になりました。明治記念館で行われた授賞式後の懇親会では、高円宮妃久子さまに向け



上田校長と筆者

て 4 分間のプレゼンを行いました。高円宮妃久子さまから、「教科書はいつ変わるのですか？」と質問を受け、同席されていた主催者である産経新聞の近藤哲司社長より、「疑問を持つことは立派な事です」と賞賛の言葉を頂きました。とても貴重な経験は私にとって一生の宝となりました。この会報誌を読んでいる皆様には、「守り」に走ろうとせず、「攻め」を貫く生き方、自分にしか出来ないことに挑戦をして欲しいと思います。今回の受賞を励みにこれからも研究を続けて行きたいと思います。

(帝京大学 薬学部薬学科 4 年生 在学中)

独協通信 104 号 (令和 7 年 6 月初旬発行) の原稿募集

締切日：令和 7 年 3 月末

同窓生の皆様から、投稿をお待ちしています。

- ① ドイツ語圏における体験など (800 字)
- ② クラス会、OB 会、など集いの報告 (200 字)
- ③ 獨協の思い出 (800 字)
- ④ 近況報告 (200 字)

* 頂戴しました原稿への加筆・修正、一部削除などをご承知ください。

* 独協通信は同窓会ホームページにも掲載されますので、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

郵送の場合 ➡ 〒 112-0014 文京区関口 3-8-1 獨協同窓会

メール ➡ info@dokkyo-mejiro.com

電話 ➡ 03-3946-6352 (毎週月・木 13:00 ~ 16:00)



今回はドイツの負の遺産について語られます。今日ではアウシュヴィッツなど施設の見学は広く世界に発信され、度々テレビ番組でも取り扱われるようになりましたが、筆者の留学時代はそうではありませんでした。当時、筆者が受けた衝撃を押し量る事は私にも出来ません。ここに筆者の言葉で記すことは意味のある事だと思います。(監事:沖山秀司 S49 年卒)

ビルケナウ 第二収容所 (ビルケナウは収容所というより街、その面積は東京ドーム 40 個ほど)

少し時間をもどして 1972 年 (昭和 47 年) の冬のこと、まだベルリンで生活を始めたばかりの最初の冬休み、ポーランドへのスキーパックツアーに参加しました。スキー場への旅すがら連れてこられたのが Oświęcim (オシフィエンチム) でした。Auschwitz (アウシュヴィッツ) とドイツ語にすれば誰でも思い当たるはずです。ユダヤ人の強制収容所があった場所で、博物館になっていました。「死の製造ライン」と呼ばれたホロコーストの現場です。

名称こそ国立オシフィエンチム博物館 Państwowe Muzeum w Oświęcimiu (当時の名称) ですが、館と呼べるものは厨房棟を改築した資料館だけで、外見は収容所そのものです。また周辺の建造物も博物館に含まれていました。ポーランド軍の兵舎の跡地を修復して最初にこの第一収容所が造られ、第二、第三収容所と次々に増築されました。中でも最大規模を誇るのが、地名 Brzezinka (ブジェジンカ (白樺の地)) から Birkenau (ビルケナウ) と名付けられた第二収容所ですが、そこには行っていません。これらは収容者 (「囚人」とは呼びたくない) の強制労働によって造られました。聞き違いで無ければこういった収容所はポーランドに 50 ヶ所程もあったとか。



ARBEIT MACHT FREI

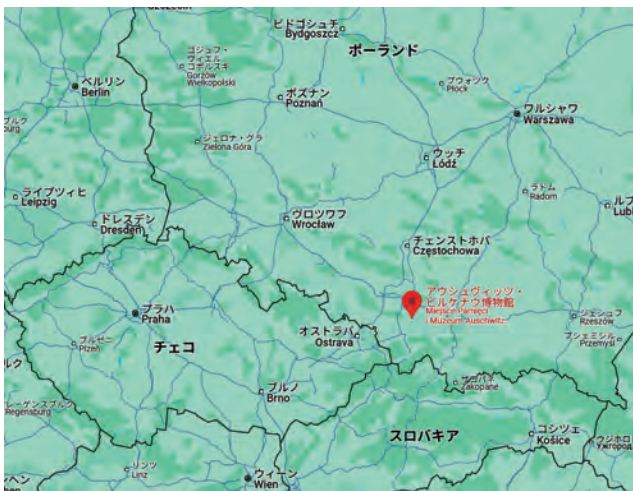
が極寒の冬の早朝に来館者は我々だけだったので。

有名な「ARBEIT MACHT FREI (働けば自由になる)」と書かれたアーチ看板は入口の門を飾っていました。ただ当時の看板はネオナチという輩 (やから) に盗まれています。すぐに見つかったものの現在の看板はレプリカです。

収容所全体を二列の有刺鉄線柵が囲っていました。稲妻やドクロの絵に注意 (VORSICHT)、止まれ (HALT) と書かれた立て札が等間隔に並び、内側が電気柵だったとわかります。虐待に耐えきれなかった人の自殺がそこで相次いだそうです。特に街路に面する部分などには外からの視線を遮るようにコンクリート塀がさらに囲っていました。

修復は完璧で、悪い冗談ですがまだ使えます。もし収容棟を集合住宅と見立てれば一つの街の様相です。ペントハウス付き二階建て赤茶レンガの元兵舎が整然と並ぶ壮観は、そこでの残虐行為との対比が際立っていました。ポーランド政府にしてみれば自国の土地が使われ、自国民さえも殺されたことに怒りもあったのでしょうか、この国費をかけての修復には意気込みのようなものを感じます。そもそも初期の収容者はポーランド人の政治犯で、犠牲者数ではユダヤ人に次ぐものでした。

所内を巡る中、死のブロックという牢獄棟に案内されました。最初にガス室があった場所で、ガス室の移転後に牢獄に改築されたとのこと。地下にはいくつかの特殊な独房がありました。レンガで閉鎖され



我々ドイツ人 (+日本人) の団体にはドイツ語を話すガイドが付いて、午前中の時間をたっぷり使って詳細に案内してくれました。運が良いのか悪いの



牢獄棟(左) 死の壁の裏、医療研究棟、そして「白樺通り」

た空間ですが、上半分が取り払われて中が見えます。立位房 (Cele do stania) とでも訳せば良いのでしょうか、半畳程の床面積、棺を縦に造ったと言えおおよその狭さと構造がわかると思います。

独房とは見た目からの思い込みで何と四人用でした。一人でも横たわることも座ることもできない狭さに、扉は犬用ではと見まがう程の小ささです。そこに四人もの人が犬のように這って入ったのです。

入獄刑に処された人は他の収容者と同様に昼間は労働に駆り出され、夜間はこの「獄」に戻されます。「空気すら薄く光が一切入らない闇空間、労働による疲労、睡眠欠乏、寒さと空腹、閉所に閉じ込められ解放されないかも知れないという恐怖と精神的苦痛」とは勝手な想像ですが、いずれにしてもそんな獄中で生き抜けるのでしょうか。入獄は実質的な死刑でした。事実、大半の人が数日間の刑期を全うすることなく亡くなったようです。さらに同じ地下には餓死刑専用の独房までありました。本来当たり前ですが、鉄格子の扉と便器、何より多少の空間があったのがせめてもの救いでした。

その牢獄棟と二枚の壁で結ばれて医療研究棟が建っていました。両棟と両壁で囲まれた長方形の空間があって、壁の一方が「死の壁」と呼ばれている銃殺の刑場です。その内壁を成す弾丸受けには献花がされていました。絞首刑も執行されたそうです。そういえば牢獄棟には移動式の絞首台がありました。

医療研究棟の入り口にも献花がされていたので、「医療」どころか「怪実験」が行われていたことがうかがえます。人が都合よく検体が変わって行く刑場のとなりに医療研究棟があるのは偶然ではないでしょう。正に「死の製造ライン」と呼ばれる所以です。あとで地図を見ると何故か最南端のそこは最北端の火葬場から最も遠い場所に配置されていました。

「何故」と言えば、死の壁の裏を走る並木道です。三列の有刺柵を背にしてベンチが等間隔に並び、ご丁寧に「Birkenallee (白樺通り)」とドイツ語の名前まであったりして。この美しく優雅な並木道はいったい誰の何のためだったのかと無性に腹が立ちました。

さらに強烈に記憶に残っているものは、屋外に展示されていた立位房、その木の扉に浮き彫りになっていたイエス・キリストの半身像です。彫られた後光が印象的でした。入獄した人が暗闇の中、爪などを使って手探りで彫ったのでしょうか。透明な板で大切に保

護されていました。しかし宗教的理由でもあるのか、現在このキリスト像は公開されていません。

収容所を一巡した後やっと資料館に案内されました。中庭付きの収容所最大の建屋です。中庭の門前には集団絞首台の梁が建っていました。そこは収容者達が労働の行き帰りに点呼を受けた広場でもあります。帰りの点呼で脱獄者がいると知れた場合、無関係の数人が集団責任を負わされその場で処刑されたのです。

最初に入った廊下には犠牲者たちの写真が壁一面に貼られていました。暖房はされていたはずですが、外よりも寒く感じたことを今でも覚えています。女性や十代位の青年の顔も少なからずありました。幼児、赤児、老人のことを考えると心が痛みます。写真が無いのは、苛酷な道中で息絶えたか、到着するやく無価値と選別されてシャワー室と偽ったガス室に送られたか、「検体」にされたか、そんなところでしょう。

アウシュヴィッツ収容所と言えばガス室で有名ですが、より大規模でより多くの人が殺されたのはビルケナウ収容所の巨大ガス室です。戦争末期に証拠隠滅のために爆破されて残骸が残るのみだそうです。

圧巻はうずたかく積まれたメガネ、靴、鞆、食器、歯ブラシなどの遺品の数々です。品目ごとに区切られてガラス越しに見ることができました。その内容から、多くの人はここに生活するつもりでやってきたことがわかります。さらに圧巻が頭髪の山です。筆者の感覚では、生前に断髪されたとしても髪はご遺体の一部です、見るにたえません。人工物であっても義手、義足も同じです。ご遺体の写真を一切隠すという博物館側の配慮が片手落ちです。そんな感情を嘲笑うかのように、人の脂肪から造られた石鹸の山が目前に迫ってきて、寒さからではない身震いを覚えました。

最後が映写室です、収容所の紹介映画の後、責任者の将校、医師、看守などの顔写真がスクリーンに次々映し出されました。その中でまだ捕まっていない人の捜索は続いているそうです、恐らく今現在までも。

資料館を去る前に見たのは角部屋に置かれていた墓石モニュメントです。遺灰を収めた透明な骨壺が頂点に乗っていました(合掌)。



遠く有刺鉄線柵を越えて管理棟(左)と総司令部棟

RAVANELLO

高村精一さん 昭和36年卒業

練馬区桜台の住宅地の一角に日本自転車競技会のレジェンドと呼ばれる自転車プロショップがある。店名は「RAVANELLO (ラバネロ)」。イタリア語で「大根」という意味。練馬区名産の練馬大根から取ったそうだ。プロショップと聞くと敷居の高い印象を受けるが決してそんなことはない。実際、近所の人がママチャリのパンク修理に来ている。

たかむら高村さんは、天野貞祐先生が校長の時分に獨協中学に入学。家業の精密機械工場を手伝っていたのも相まって、子供の頃からモノ作りが好きだったことから、美術部に入部。美術部の自転車好きの先輩と自転車通学をしていた仲間達で自転車同好会を創部。身体を動かすことは好きではなかったものの、自転車に乗ることだけは好きだったとは高村さんの談。

当時は、後樂園競輪場（現在は東京ドーム）や目白坂で練習し、関東大会（高校生の部）2連覇、さらに、高校2年及び3年時には国体にも出場した経歴を持つ。

高校卒業後は、日本大学の先輩に誘われ、強豪の自転車部のある日本大学経済学部に入部。大学1年生からインカレのメンバーに選出される。

大学卒業後は、家業を継いだ。昭和49年の石油ショックを機に、RAVANELLOの前身であるタカムラ製作所を同年に開業。今年で50周年を迎える。

走りのRAVANELLOと呼ばれ、高村さんが作った自転車を操るオリンピック選手も輩出した。

フレームを他のメーカーにオーダーしたものの、製作できないと言われたことが、自分でフレーム作りをするようになったきっかけだという。当時から手先は器用で、高校時代にはフレームを製作する工場を見学させてもらっていたとのことだが、フレーム作りは独学。溶接も独学。全て独学。フレームの設計思想についてお話を聞かせていただいたが、フレーム製作の奥深さに感心させられた。

現在は、チームRAVANELLOを率いて、ジュニア選手の育成に力を注いでいるとのこと。レースだけではなく、サイクリング好きのメンバーが集まり、毎年北軽井沢で合宿を開催しており、開催回数はコロナの時期を除き、なんと今年で48回目。

ロードバイクだけでなく、ミニベロ（小径車）も製作しており、サイクルジャージを着て乗るような自転車だけでなく、普段着で自転車に乗るような人にも楽しめる自転車フレームを製作している。

今回取材をさせていただき、高村さんの人柄の良さから多くの方が周りに集まってくるのだろうなと感じた。獨協の後輩に向けて、「勉強が大事。人間性が大切」



とのメッセージをいただいた。来年3月で82歳になる先輩から言われると、ぐうの音も出ない。

現在、高村さんの製作するフレームは、完成まで6カ月から1年待ちとのこと。（高村さんにがんばっていただければ、もう少し早くなるかも!）

獨協生がフレームをオーダーした場合には、獨協の校章の彫刻をフレームに入れていただけるとの約束も取りつけたので、自転車に興味のある獨協生は自分用に、興味のない獨協生は家族や友人用に是非、獨協オリジナル自転車の製作を依頼してみてもいいだろうか。

高村さん、いつまでもお元気で、価値観が一変するフレームを作り続けてください。

<店舗情報>

RAVANELLO

〒176-0002 東京都練馬区桜台 5-28-13

TEL 03-3991-3686

FAX 03-3991-6331

URL : <https://www.ravanello.com/bike/>

E-mail : info@ravanello.com

OPEN 11:00 ~ 20:00

CLOSED 日曜日・レース開催日

サッカー一部OB会 暑気払い

沖山 秀司 (昭和 49 年卒業)

2024年8月15日 横浜中華街「景德鎮」にて、6月1日にお亡くなりになられた保健体育の吉田卓司先生の形見分けを兼ねて集まりました。吉田先生には1956年(S31)創部よりご指導頂き、獨医大へ転勤されるまでサッカー部員に温情を注いで頂きました。吉田先生のご冥福を祈って献杯をいたしました。写真に写っている往年の精鋭も様々な病気と共存するようになっていきます。皆の健康も祈り散会しました。



獨協ソフィア会からのご報告

獨協ソフィア会長 宮崎 輝雄 (昭和 42 年卒業)

烈火の中の8月1日に、母校獨協の同窓会長に竹内文生さんが就任されたお祝いと、退任された前会長の木原正義さんの慰労を兼ね納涼会を開催しました。

出席者は獨協同窓会元会長の浅野一さん、獨協大学同窓会前会長の須藤明弘さん、ソフィア会前会長で獨協ソフィア会顧問の戸川宏一さん、獨協ソフィア会副会長の戸川清さん。ソフィアンズクラブに集合し、名刺交換をし軽く喉を潤しました。話も弾み四ツ谷駅商店街の「蔵や」に移動し楽しく語らいました。

当初参加予定の獨協中学・高等学校校長の上田善彦さんは所用の為今回は欠席となりました。

(PS.)ソフィアンの方はご一報ください。m-teru48@mth.biglobe.ne.jp



獨協ラグビー倶楽部

茂木 享 (昭和 60 年卒業)

2018年に獨協ラグビー部が創部60周年を迎え、記念パーティ時に現役部員たちの応援を主とし、世代を超えたOBの方々との絆を深め、何事にも楽しむ獨協ラグビー部らしく、のスタンスで『獨協ラグビー倶楽部』を発足しました。

コロナ禍で活動が限られておりましたが、2023年11月19日(日)獨協校舎にて第2回総会を行いました。

50名余のOBが参加、現役部員への激励、芝全行氏(大学時代日本選手権に出場)による講演、歴代ジャージの贈与、昼食後には現校舎に初めて入ったOBの方々と校舎内を見学、最後はグラウンドにて現役部員を交えてのタッチフット大会を行いました。動かない身体に気合を入れてプレーしており、懐かしさを感じながら楽しんで頂けたのではないかと思います。

今回役員交代により、芝氏(1980年卒)より茂木(1985年卒)が会長を引き継がせて頂くことになりました。

役員一同、活発に活動していきます。



鉄道研究部 OB 会 現役部員との交流会を開催しました

長内 俊樹（平成 28 年卒業）

コロナ禍も終息傾向となった 2024 年 3 月 17 日、現役部員との交流を目的とした「貸切交流会」を開催、25 名を超える世代を超えた OB が集結しました。現役部員を交えたイベントは OB 会発足以来初となります。

午前は東急電鉄さまのご協力のもと、東急池上線・多摩川線で貸切列車を運行。OB 会代表、現役生代表、顧問の鳥山靖弥先生、元顧問の小川正城先生による「ご挨拶車内アナウンス」に始まり、6 名ごとのグループに分かれて現役部員と OB それぞれの鉄研エピソードに花を咲かせました。

午後は JR 東日本の“都区バス”を利用し、グループ別に各駅に設置しているスタンプを「しりとり」の要領で集めるスタンプラリーを実施。幅広い年代の鉄道マニアが集まっただけあり回答は多種多様で、高得点のグループには景品が贈られました。

初対面でも親しくなった現役生と OB の姿が印象的だった今回のイベント。今後も「獨協鉄研の輪」を広げられるよう、活動を続けてまいります。



「獨協同窓会西日本支部」を立ち上げ

谷口 有三（昭和 53 年卒業）

2 月 25 日（日）大阪・西梅田のハートンホテルで獨協大学同窓会近畿支部のつどいが開催され、この会合を間借りする形で「獨協同窓会西日本支部」立ち上げを行いました。近畿地方在住の福地仁志さん、神谷善弘さんの他に東京から須藤明弘さん、海田正則さんが駆けつけて会を盛り上げて下さいました。愛知県以西に在住の卒業生の集う支部へと発展させたいと思います。来年も 2 月頃の開催を予定しております。ご連絡は常任幹事の谷口有三（S53 卒）までお願い致します。



クラス会だより

昭和 40 年卒業の同窓会

岸 英明（昭和 40 年卒業）

令和 6 年 3 月 23 日（土）に椿山荘庭園内の「木春堂」にて昭和 40 年卒業の英語クラスの同窓会を開催致しました。参加者は、写真の左より松井明照・岸英明・水谷匡洋・長坂利一・大坪嘉春・吉川秀昌の 6 名です。物故者の恩師と友人に対し黙祷を捧げ、次に乾杯の唱和で昼の食事が始まりました。

それぞれに近況報告と共に恩師や同級生の話に花が咲き、あっという間に貸切の 2 時間が過ぎてしまい、コーヒーショップに移動し更に 1 時間ほどダベリ散会しました。同窓会で思うことは、60 年を過ぎても会った途端に「当時の友人に戻れるという嬉しさ」と「物故者の確認や住所不明者の多さに寂し



さが募る」という複雑な気持ちになることです。
 なお、次回と同窓会については未定ですが、新たに

参加してみようと思う人は、前もって水谷又は岸まで
 連絡をして下さい。

古川 38 会

遠藤 和 男 (昭和 41 年卒業)

5月26日(日)午後3時、夕暮れ迫る新宿歌舞伎町の大陸で開催いたしました。参加者は写真左列手前から、野原、矢島、高野、石山、吉澤、佐藤、右列手前から、千葉、小曾根、高濱、松丸、遠藤(渡部はトイレ中)の12名メンバーです。

欠席者のほとんどが病欠で、中には二度と会に参加できない者が出てきております。参加者の中でも、今年喜寿を迎えるにふさわしく?皆病気持ちで、話題はやはり持病となるのはやむを得ないところです。それでも、野原をはじめ、会が進むにつれ昔話に花が咲き、2時間半はあっという間に過ぎ去りました。来年も開催を約束して、歌舞伎町の夜陰に消えていきました。



7月会35の第2回

中村 昭 美 (昭和 41 年卒業)

令和6年7月6日(土)に中国薬膳料理 星福にて開催しました。

コロナ禍がまだ完全に治まりませんが喜寿を迎えました。今回は喜多君と平岡君が全て準備していただきました。

今回2組は上原君、横山君、喜多君、白水君、島田君、加藤君、山口君、相馬君、石田君、平岡君の10名、1組は小杉君、森田君、下村君、北岡君、菅谷君、松本君、中村の7名、合計17名の参加で喜多幹事の挨拶で始まりました。外は雷雨の中欠席者も無く、無事に会談に入りました。今回は各自の近況よりも各テーブル席でそれぞれの話に花を咲かせて料理と飲み物を口に運んでいました。

最近の話題は健康面の話が多く、医者の方の横山先生と相馬先生の話に今後の終活に役立てられる話

に盛り上がっていました。気がつけば3時間はすぐに過ぎ解散時間がきたので、全員の集合写真を撮って次回の再会を約束して、銀座の夜にそれぞれの帰路につきました。



1970 年卒業 1 組独逸語クラス

青木 秀 夫 (昭和 45 年卒業)

1964年中学入学、1970年高校卒業、ドイツ語クラス、総勢35名。6年間クラス替え無し、卒業してから52年、7回目クラス会12年ぶり開催。

新大久保ミライザカ11名参加。常連だった一柳・金田君が2023年亡くなりました。

2001年には新宮・金・大久間慶主管を招待してのクラス会でした。三人の先生方も亡くなりました。ご冥福をお祈り致します。

3主管の先生方とクラス会を持てた事誇りに思っております。

年1回開催?予定でしたが余りにも楽しかったので今秋(2024年10月末 or 11月初旬)また開催します。



昭和58年卒60歳記念同期会

高柳 公康 (昭和58年卒業)

2024年10月19日17時30分より 表参道バンブーにて、昭和58年卒60歳記念同期会を開催いたしました。

50名を超える同期が集合し、同期の皆と共に「獨協1983還暦記念」のお揃いの赤いTシャツを皆で着て、還暦のお祝いをいたしました。

40歳、43歳(卒業25年記念)、50歳、そして今回で4回目の卒業後の同期会です。懐かしい顔や、顔と名前が一致しない等、最初はぎこちない感じでしたが、各人の近況報告をするうちに、会は盛り上がり、最後には、喜びの歌(ドイツ語バージョン)と校歌を皆で歌い、最高に盛り上がり、会が終了となりました。

二次会から三次会まで皆で飲み明かした1日でした。

これからも永遠の友と時間がある限り会いたいと思います。皆との連絡方法をFacebookのグループを利用していましたが、FacebookだけでなくLINEグループに「獨協1983」と言うグループLINEを今回作りましたので、登録メンバーの方は、そのLINEグループ

に友達を招待してあげてください。

赤いTシャツ欲しい方は2,000円+送料で購入出来ますので、高柳までお申し込みください。

katsutsurumaki5@hotmail.com



私の近況

●旧制東京歯科大学を昭和28年に卒業以来、70年の歯科医人生に幕を閉ず。獨協の友人の現存は4名。鹿島、牧、馬場と私。97歳と96歳。私は合気道の指導に専念。探求に日を送る。<畦森公望(昭和20年卒)>

●目下、一応元気ですが95歳となりますと、どうしても足のつけ根が痛く、少々歩くのが不自由ですが、杖無しで一応どこまでも歩いて目的地まで行くことはできます。もう同級生1人になりました。さみしいです。<石井進(昭和20年卒)>

●通信102号の近況欄、昭和19年卒の方の健筆に驚きました。我々も中学1年の頃は戦時色はあったものの、動員や空襲はまだなく、古きよき時代の中学生活の一端を味わえたかなと今思います。同友の健在を祈ります。<橋本徳朗(昭和23年卒)>

●毎日早く起きてストレッチ、早歩き1時間。おかげ様で元気です。目指せ!!エージシュート<粕谷昭良(昭和36年卒)>

●内科医として55年が経過しました。医学部卒業当時はいわゆる激動の時代で言い尽くせない出来事を経験した年代です。高校時代の朝礼での天野貞祐校長の訓話は未熟な若者を支えてくれたと感謝しています。都心の急性期病院を定年後、現在都下の療養型病院勤務中(神戸大学医学部 昭43年卒)<木村満(昭和37年卒)>

●早くも80歳。ヨガ、太極拳を続けていますが、歳には勝てず診察券も8枚になりましたが、それなりに楽しんでおります。もう少し頑張ろうかなと思えます。<安田種光(昭和38年卒)>

●昨年、後期高齢者になりました。いつあちらの世界に行くかも知れませんが同窓会費は口座引落しせず、年ごとに振込用紙で納付します。振込用紙が届いた時には一年間生きられたと感謝します。<宮崎輝雄(昭和42年卒)>

●中高サークルはグリーンクラブ。あれから54年。今、出版労連鳥の歌(混声10名。男性は私だけ)大宮男性合唱団(15名)に所属。楽しんでいます。月1回は歌声喫茶ともしびで歌っています。<青木秀夫(昭和45年卒)>

●私は72歳ですが、現在同じ年齢の人やもう少し上の人とフォークギターをいじっています。唯一の楽しみです。当時の空気を吸って成長した私達。何か通じるものがあるように思います。みなさんもお元気で。<田原理一郎(昭和48年卒)>

●獨協高校卒業後50年が過ぎ、これまで脳神経外科教授、大学病院長から県立大学学長などの公務に邁進してきましたが、古希を迎えて一気に暇になりました。最近個人的に興味のある「頭痛診療」、「漢方医療」の勉強に時間を割けるようになりました。これらの診療・学術活動を通じてボケ予防、健康長寿を目指していきたくと考えています。<松村明(昭和48年卒)>

●独協通信102号の「獨協ぶらり旅」の文中に国語の新井洋一先生のお名前が出ていたので忘れられない先生の一言をご披露します。<「早いと女の子に嫌われるよ」>

昭和47年当時は「手が早い」と思っていたのですが、その4年後初めて(ようやく?)その真意にたどり着きました。<大島康成(昭和48年卒)>

●獨協同窓会スタッフとして20余年。同副会長として6年間おつとめさせていただきました。この度、副会長を辞することになりました。みなさま本当にありがとうございました。<谷田貝茂雄(昭和51年卒)>

●令和4年9月いっばいで35年間続けていた診療所を閉じました。旧年8月に妻を亡くし、落ち込んでいました。令和5年6月から獨協の先輩の病院でお世話に

私の近況

なることになりました。お陰様でどうにか立ち直りつつあります。心の拠り所はやはり獨協ですね。

＜吉崎明彦（昭和51年卒）＞

●新病院を立ち上げて早11年目。今年は新たな事業を始める予定です。7月より1年間ロータリークラブの会長を務めることになりました。竹内新会長のもとで再度同窓会に関わることになりましたので皆様よろしくお願い致します。

＜野村芳樹（昭和54年卒）＞

●2021年10月のコロナ禍の最中に東京を脱出し、縁あって千葉県大網白里市に移住しました。私は20年前に脱サラし、ドイツの高級掛け時計の輸入卸とそれらをネット販売をする仕事。家内も早期退職し、通訳翻訳のオンライン仕事がメインとなり、夫婦で引退の

ないリモートワークの毎日です。家内は東京時代とは桁外れの敷地に約400株のバラ園を趣味で行い、私はその手伝いと地の利を生かしてシニアゴルフを楽しむ準備中です。

＜小早川修一（昭和54年卒）＞

●駅ビルの区民事務所も9ヶ月が経ち、落ち着きはしました。長女も社会人3年目、次女も専門学校に入学し、心配なのは長男の高校受験です。

＜藤島一郎（平成7年卒）＞

●皆様ご健勝の事と思います。現在私は非力ながら英語教育の場に身を置き、日夜よりよい教育はいかにして進歩するかを熟考致しております。皆様のご活躍を心よりお祈り致します。

＜鈴木俊弘（平成9年卒）＞

寄付金納入者一覧（「102号」以降）

（敬称略）

石井 進	（昭和20）	20,000	（匿名）	（昭和41）	100,000	鈴木 敏彦	（昭和52）	10,000
藤沢 光次	（昭和29）	30,000	（匿名）	（昭和41）	10,000	遠山 洋一	（昭和53）	10,000
南部 光徹	（昭和29）	30,000	森田 芳和	（昭和41）	（匿名）	田中 良	（昭和54）	10,000
土生 裕	（昭和30）	10,000	池松 武直	（昭和42）	10,000	高田 正道	（昭和55）	10,000
野村 恭弘	（昭和30）	10,000	福井 康夫	（昭和42）	10,000	（匿名）	（昭和56）	（匿名）
滝川 国勝	（昭和32）	20,000	戸川 清	（昭和42）	10,000	佐藤 潤	（昭和56）	10,000
大橋 一三	（昭和33）	10,000	宮崎 輝雄	（昭和42）	10,000	木村 宗孝	（昭和58）	10,000
飯嶋 義信	（昭和33）	10,000	西垣 朝裕	（昭和42）	10,000	山崎 博之	（昭和59）	10,000
大沢 悠里	（昭和34）	10,000	池松 武直	（昭和42）	10,000	吉松 栄彦	（昭和59）	10,000
有我 昭蔵	（昭和34）	10,000	東平 進	（昭和43）	10,000	塩島功一郎	（昭和59）	10,000
高橋 龍二	（昭和34）	10,000	村上 順	（昭和43）	10,000	福澄 重泰	（昭和61）	10,000
金子 宏	（昭和34）	10,000	竹内 一雅	（昭和43）	10,000	矢野 剛司	（昭和62）	5,000
塩崎 晴朗	（昭和34）	10,000	長山 和夫	（昭和44）	10,000	（匿名）	（平成1）	（匿名）
梅木 建昭	（昭和35）	20,000	橋本 俊春	（昭和45）	10,000	藤田 和彦	（平成1）	10,000
吉田 浩	（昭和35）	10,000	西原 潔	（昭和46）	10,000	玉井 道寧	（平成4）	20,000
藤田 実彦	（昭和35）	10,000	新井 雅安	（昭和46）	10,000	天野祐一郎	（平成4）	10,000
神保 孝雄	（昭和35）	10,000	小川 守一	（昭和46）	10,000	國松 常芳	（平成10）	60,000
松木 益道	（昭和36）	5,000	森 一博	（昭和47）	10,000	稲葉 由樹	（平成23）	10,000
粕谷 昭良	（昭和36）	5,000	（匿名）	（昭和48）	10,000	稲葉 由樹	（平成23）	（匿名）
（匿名）	（昭和37）	10,000	（匿名）	（昭和48）	（匿名）	松永 卓士	（平成23）	20,000
（匿名）	（昭和37）	10,000	（匿名）	（昭和48）	10,000	（匿名）	（令和3）	10,000
益井 邦夫	（昭和37）	10,000	伊藤 英一	（昭和52）	10,000	渡部 真徳	（令和4）	10,000
松岡 晋	（昭和39）	10,000	吉野 英夫	（昭和52）	（匿名）			
中田 徹男	（昭和41）	10,000	岩瀬 彰彦	（昭和52）	10,000			

ご協力ありがとうございました。今後とも会費納入および財務拡充のご寄付をよろしくお願い申し上げます。

獨協同窓会は任意団体のため、寄付金控除制度の対象になっていません。

確定申告での所得控除や税額控除は受けられませんので、予めご了承ください。

物故者名簿（『独協通信』102号以降） ご冥福をお祈り申し上げます

卒業年	氏名	物故年月日	昭和32年	井上 正己	2024/9/21	昭和43年	金丸 喜信	2021/3
			昭和34年	小沼 茂昭	2023/5	昭和45年	玉田 啓	2024/9/6
昭和20年	岡田 太一	2024/7/20	昭和34年	原田 英雄		昭和46年	中村 龍民	2023/7
昭和22年	大川 清	2023/10	昭和35年	吉沢 哲雄	2024/2/27	昭和48年	廣瀬 和則	2023/12/30
昭和22年	新井 淳	2020/9/12	昭和36年	浅井 義弘	2017/1	昭和48年	椎名 千里	2024/5/31
昭和23年	天野 一慶	2021/2	昭和37年	江口 英彦	2023/12/21	昭和49年	榊田 滋也	2022
昭和23年	伊藤 敏男	2024/4	昭和37年	加藤 晴朗	2024/2/5	昭和49年	前田 栄祐	2020/11/11
昭和24年	綿引 篤	2018/2	昭和38年	五前 國明	2024/1/25	昭和51年	入野 満哉	2022/3/28
昭和29年	藤沢 光次	2024/1/9	昭和42年	伊藤 和雄	2024/4/19	昭和55年	渡邊 和弘	2023/10/5
昭和32年	佐武 一英	2021/9/8	昭和43年	高橋 聖二		昭和57年	村上 杉郎	2023/7/13

～甲状腺を病む方々のために～

ITO HOSPITAL 伊藤病院

院長 伊藤公一 (昭和51年卒)

TEL. 03-3402-7411 東京都渋谷区神宮前4-3-6 www.ito-hospital.jp

NAGOYA

名古屋甲状腺診療所

TEL. 052-252-7305
名古屋市中区大須 4-14-59
www.kojin-kai.jp/nagoya/

医療法人社団甲仁会
理事長 伊藤公一

SAPPORO

さっぽろ甲状腺診療所

TEL. 011-688-6440
札幌市中央区大通西 15 丁目 1-10 ITOメディカルビル札幌 5F
www.kojin-kai.jp/sapporo/

医療法人社団 野村会 昭和の杜病院

東京都昭島市宮沢町 522-2

理事長 野村芳樹 (昭和54年卒)

医療療養型 180床・透析ベッド 36床

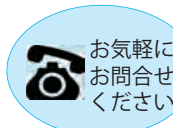
入院 (一般内科・透析)・外来透析・各種健康診断随時ご相談ください

TEL 042-500-2611 FAX 042-500-2612

SASAKI LAW OFFICE 佐々木綜合法律事務所

東京都千代田区神田須田町 1 丁目 26 番 芝信神田ビル 10 階
TEL 03-3255-0091 FAX 03-3255-0094

相続・不動産・企業法務など
さまざまなお悩みを承っております。



お気軽に
お問合せ
ください

東京弁護士会所属
弁護士 佐々木 広行 (昭和61年卒)
〔平成28年度 東京弁護士会副会長〕

M 駒込みついで眼科

東京都文京区本駒込6-24-5-4F

〔最寄駅〕東京メトロ南北線駒込駅 1番出口前/JR駒込駅南口 徒歩1分
TEL: 03-3943-8765

白内障日帰り手術、緑内障診断、レーザー治療、小児の斜視弱視治療
眼瞼・顔面けいれんへのボツリヌス療法、コンタクトレンズ・眼鏡処方

院長 三井 義久 (昭和63年卒)

宇宙開発のプロジェクトマネジメントで 会社が成長する仕組みを作る

LAGRAPO

株式会社ラグラポ

代表取締役社長

高野 宗之 (平成8卒)

経歴 (担当実績)

三菱重工業 H-IIAロケット設計

JAXA HTV (こうのとり) 開発

電話: 03-6824-0833

メール: contact@lagrapo.co.jp



お問合せ、お待ちしております。



院長 清水 崇裕 [平成17年卒]

薄毛治療ならベアAGAクリニック

◆薄毛でお悩みの独協卒業生の皆様、お気軽にご連絡ください (獨協割あり)。

〒160-0022 東京都新宿区
新宿3丁目14-22 小川ビル4階

<https://www.bea-agaclinic.jp/>
TEL: 03-5925-8241 ※木・祝 休診



保管にお困りの「思い出の品」はありませんか？

制服制帽・教科書・名簿・アルバム・記念メダルなど
資料センターでは獨協の歴史を未来に残す活動をしています。

ご提供頂けます資料がありましたら同窓会事務室
までご連絡ください。



獨協学園史資料センター (獨協大学内)

編集後記

同窓会執行部の改編に伴い、今回から独協通信の編集に携わることになりました平成8年卒の鍋屋です。執行部交代のタイミングのため、これまでより少しボリュームがでてしまいましたが、今回の独協通信いかがでしたでしょうか。団塊の世代からZ世代まで、世代を超えて同窓生が繋がることが同窓会の良いところです。是非、毎年6月の総会後の椿山荘での懇親会や獨協祭の同窓会ブースにお越しいただき、異世代・異業種の同窓生と会って沢山話してください。普段、生活している中では会えないような人達が沢山います。同窓会が同窓生にとって新たな出会いの一助になれば幸いです。

鍋屋

